

消防千葉

2014 No.532 平成26年11・12月号

平成 26 年 12 月 1 日 編集兼発行人
千葉市中央区仁戸名町666番地2 千葉県消防会館内
公益財団法人千葉県消防協会会長 石橋 毅
TEL043(263)9885
郵便番号 260-0801 (定価 50 円)
ホームページ <http://business4.plala.or.jp/chisyo/>
メールアドレス chisyokai@bz04.plala.or.jp



「飯高寺」匝瑳市（海匝支部）

巻 頭 言

「安心して暮らせる街を目指して」

我孫子市 消防長 豊嶋 昇



平成 26 年 11 月 9 日の 119 番の日を起点として 1 週間、「平成 26 年度秋季全国火災予防運動」が実施されました。火災予防思想の普及を図り、火災の発生を防止することを目的としたこの運動は、1953 年から実施されそれぞれの地域において各種運動が行われてきました。当市では火災予防巡回広報を実施し、消防隊の士気向上による消防力の強化、市民への啓発を目的として、消防隊の火災対応訓練を実施し消防長査閲を行いました。

この伝統ある行事の精神を引き継ぎ、更には災害防除、人命救助という崇高な業務を全うしようとする時、必要なこと、それは組織として消防力強化のための様々な施策を実施すること、職員個々が消防という職務に誇りを持つ事の 2 点が重要だと次のとおり考えています。

1 点目の組織としての施策として、当市の消防力は人口 13 万余人に対し、人員 147 名、消防車両等 15 台、救急車 4 台の体制で消防活動にあたっており、これまでに実施している車両、装備の能力向上と増強の施策を継続するとともに、消防力の根幹を成す人員の強化を図るため、平成 23 年度に県消防学校初任科入校職員を定数外とする条例改正を実施、さらに平成 25 年度には増加の一途を辿る救急需要に対応するため救急隊の増隊を見据えた職員定数を増加させる条例改正を実施いたしました。また、隣接する柏市と通信指令業務の共同運用を行い、迅速な応援体制と市境における協力体制の構築を図りました。

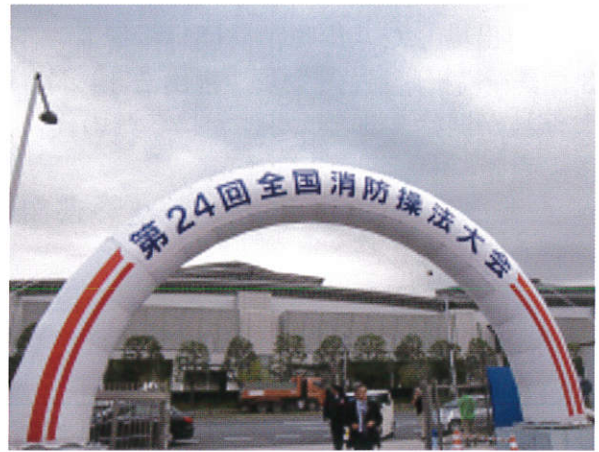
昨年 12 月に施行された「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」を踏まえた施策として、次年度から消防団員の処遇改善のため、報酬及び費用弁償の増額、国・県からの財源を積極的に利用し各装備品の整備事業を実施し、さらには消防団員の確保のため、様々な施策を展開しております。

2 点目に関しては、当市の全ての職員がこの職務に誇りを持ち日々勤務していると自負しているところではありますが、この気持ちを失わず、更にモチベーション向上のため、折を見て職員一人一人に声掛けを行い、私自身も新鮮な気持ちを失わぬよう心掛けています。

私を含め、個々がこの職務の崇高さを真に理解し訓練に励むこと、施策を達成させることを目標に日々の職務に邁進し、地域に密着した防火指導、近隣自治体との協力体制のあり方を模索しながら誠実に業務を遂行していくことを誓いまして巻頭の挨拶とさせていただきます。

第24回 全国消防操法大会の開催

平成26年11月8日（土）午前9時から第24回全国消防操法大会が東京都江東区有明の東京臨海広域防災公園において、総務省消防庁及び公益財団法人日本消防協会の主催により開催されました。



当日は、朝方のあいにくの雨の中、全国各地からそれぞれ厳しい戦いを勝ちぬいてきた、ポンプ車の部24都府県24チーム、小型ポンプの部24道府県24チームが参加しました。



9時からの選手団入場、開会宣言、国旗掲揚に続き、23回大会で優勝した岡山県和気町消防団（ポンプ車の部）、長崎県壱岐市消防団（小型ポンプの部）から優勝旗の返還の後、坂本消防庁長官及び秋本日本消防協会長から挨拶がありました。

その後、岡山県代表より選手宣誓があり、来賓の祝辞の後、10時から操法が開始されました。

千葉県からは、7月26日に行われた千葉県消防操法大会において小型ポンプ車の部で優勝した八街市消防団（斉藤弘一団長）が出場しました。

スタンドの上には各チームの幟が立ち並び、真新しい八街市消防団の幟が海から吹く風にはためいていました。スタンド及び一般席には地元八街市からバスに乗って、大勢の応援団が来場して、演技を見守っていました。





今回出場した八街市消防団（指揮者 下田正裕、1番員 石井 学、2番員 大塚 潤 3番員 高根康裕、補助員 瀬山浩邦）は、連日の厳しい訓練に耐え抜いた、精鋭揃いです。演技が開始すると、さすがに各県の代表だけあって、きびきびとした演技を披露していました。

八街市消防団は、小型ポンプの部開始から8番目に、大きな声援のなか堂々と演技を行いました。

4時には審査長から、ポンプ車の部の優勝は長崎県壱岐市消防団、小型ポンプの部の優勝は岡山県岡山市消防団と審査結果が発表されました。

八街市消防団は、8位で見事に優良賞を獲得しました。

その後、表彰式がおこなわれ、第24回全国消防操法大会は盛会の内に終了しました。

操法大会会場の隣接地では、消防防災展・交流物産展が開催され、近県の女性（婦人）防火クラブの皆様による「炊事コーナー」「飲食コーナー」「災害対応用品等展示コーナー」が催され、千葉県婦人防火クラブ連絡協議会（7名）の皆様によりアルファー米（五目等）の「災害食の炊き出し」の実演を行いました。



第50回 消防殉職者慰霊祭の開催

平成26年10月23日(木)に「第50回消防殉職者慰霊祭」が、千葉県、公益財団法人日本消防協会の後援により、千葉県消防学校屋内訓練場において、ご遺族、ご来賓、消防関係者など約300人のご参列をいただき、午前10時より、厳粛に執り行われました。

この慰霊祭は郷土防災の使命を果たして、その職に殉じた御霊を慰め、あわせて消防士気の高揚と防災思想の普及を図るため毎年実施しているもので、今年で50回目となります。

合祀されている殉職者は、消防組時代29柱、警防団時代11柱、消防本部・消防団時代の48柱、そして消防協力者6柱、あわせて94柱となっております。

式典は芝岸消防協会副会長の開式のことばで始まり、慰霊碑に拝礼の後、君津市消防音楽隊の演奏による国歌斉唱が行われ、司会者の案内により消防殉職者94柱の御霊に対し参列者全員により黙とうをささげました。

その後、石橋 毅千葉県消防協会長から、「我々消防人一同は、御霊のご遺訓を受け継ぎ、心を新たに団結を強め、地域防災に力を尽くし、安全で安心な社会を実現するため精進努力することを誓います。」と式辞を述べられました。

次に公益財団法人千葉県消防協会倉田最高名誉顧問から「私達は殉職者の尊い犠牲を無にすることなく、その遺徳に伝えるべく安全で安心な住みよい地域づくりに邁進してまいりたい」と追悼の言葉がささげられました。

次に千葉県知事代理として出席された高橋 渡千葉県副知事から「皆様が身をもって示された崇高な志は、今もなお三万四千余の消防人に脈々と受け継がれ、ご遺族の胸中にも大きな誇りとして生き続けていることと存じます。県としましても、防災関係機関と一致団結し、決意を新たに防災対策の一層の充実に努めていくことを、皆様の前でお誓いいたします。」と知事の追悼のことばがささげられました。その後、阿部千葉県議会議長及び県内市町村長を代表して椎名山武市長及び岩田東庄町長から追悼のことばがあり、続いて関係者、遺族の方々から、消防殉職者慰霊碑に献花が行われました。



石橋協会長の式辞



倉田最高名誉顧問の追悼の言葉

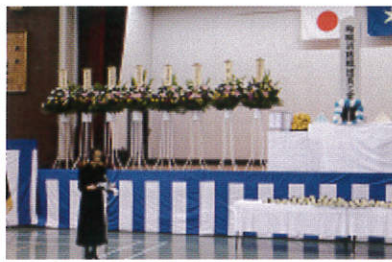


高橋副知事の追悼の言葉



最後に、遺族を代表して立原葉子様から「これからも故人の遺志を継いで、力強く生きていく所存でございます。」とのお礼の言葉及び石橋消防協会長からのお礼の言葉が述べられ、布留川千葉県消防協会副会長の閉式のことばにより、消防殉職者慰霊祭を滞りなく終了しました。

献花する遺族



お礼のことば（遺族代表・石橋協会長）

布留川副会長の閉式のことば

第159期 消防職員初任科生入校 千葉県消防学校

平成26年9月29日（月）午前11時から千葉県消防学校において、消防職員初任科第159期の入校式が行われ、27所属120名の若々しい学生が入校しました。



これから6ヶ月間の厳しい研修が始まります。当日は、開式のことば、国歌斉唱、入校生指名点呼につづいて酒井学校長の式辞が述べられ、来賓として千葉県知事（代理 飯田県防災危機管理部次長）、石橋消防協会長、消防長会長（代理 末村副会長）などからの祝辞がありました。

続いて入校生代表からの宣誓が行われ、研修に励んで一人前の消防職員になる旨の誓いが述べられました。



学校長式辞



飯田次長の祝辞



石橋会長の祝辞

防火・防災フェスティバルの開催

千葉県西部防災センター



千葉県西部防災センターでは、平成26年10月18日(土)に、松戸市消防局の共催、松戸市消防団の協力、並びに千葉県の後援を得て、「防火・防災フェスティバル」を開催しました。

松戸市消防音楽隊の賑やかな演奏でスタート。会場には、本年3月に発隊した高度救助隊の「救助工作車」、消防車と救急車が一体となった全国的にも珍しい「消防救急車」が展示され、皆さん熱心に見学されていました。一方、子供たちは本物の

消防自動車やはしご車に乗ったり、子供レスキュー隊員となって、消防職員の指導の下、綱渡りを体験したりと大興奮でした。

また、地元消防団による地野菜の直売は、昼過ぎには完売となる盛況ぶりでした。

一方、館内では、救急相談コーナーの開設、地震・強風・煙の避難体験や防災ビデオの上映が行われ、皆さん熱心に体験されていました。



今年は、スペシャルゲストとしてチーバくんが来てくれたので、子供たちは大喜び！最後の一人になるまで、一緒にカメラに納まってくれたチーバくん、大変にお疲れ様でした。

「防火・防災フェスティバル」は、平成23年度から始めて4年目となりますが、来場者の出足は前年を上回り、はしご車の搭乗体験コーナーでは長い間列が絶えず、最後までフル回転の盛況ぶりでした。

平成26年度 関東地区婦人(女性)防火クラブ 連絡協議会幹部地域研修会の開催



平成26年10月1日(水)2日(木) 渋川市の伊香保温泉「ホテル福一」において1都6県から157名が出席し、関東地区婦人(女性)防火クラブ連絡協議会幹部地域研修会が開催されました。

まず、主催者である岸群馬県婦人(女性)防火クラブ連絡協議会長及び入内島群馬県総務部消防保安課長、高砂(一財)日本防火・防災協会振興部長からの挨拶があり研修会に進みました。

最初に総務省消防庁国民保護・防災部地域防災室室長 河合宏一氏 から「地域防災力の充実強化への取組」と題して、① 災害対策法制等について ② 東日本大震災とその対応について ③ 地震対策等について ④ 風水害対策等について ⑤ 地域総合防災力の充実に向けて ⑥ 女性(婦人)防火クラブへの期待の講話があり、その後、各都県会長等による活動発表が行われました。

次いで群馬大学大学院 理工学府 教授兼群馬大学広域首都圏防災研究センター長片田敏孝氏による「学校・家庭・地域で取り組む命を守る地域防災～釜石で取り組んだ津波防災教育に学ぶ～」と題する講演がありました。



2日(木)には、「IHIエアロスペース富岡事業所」を視察しました。
千葉県からは竹内会長外2名と事務局員1名が参加しました。



わが町の消防団 ① 松戸市消防団



松戸市は、都心から20km圏に位置し、千葉県の東葛飾地域（北西部）の一翼に位置しており、西は江戸川を境に東京都葛飾区、埼玉県三郷市と接し、南は市川市、東は鎌ヶ谷市、東から北にかけて柏市、流山市と接しています。市域面積は61.33km²で東西11.0km、南北11.5kmと、ほぼひし形状の広がりとなっています。

また、古来、交通の要衝にあり、江戸時代には宿場町として栄えるなど古い歴史を誇るまちです。その面影を残す多くの古刹・名刹があり、国・県の指定文化財が残されています（国指定文化財6件、千葉県指定文化財6件、市指定文化財33件）。

我が松戸市消防団は、齋藤和實団長以下590名、1団10方面隊36個分団で構成され、消防ポンプ自動車8台、小型動力ポンプ積載自動車34台を配備し、活動しております。

1年間の主な行事を紹介しますと、5月には、2年に1度行われる近隣市町村との水防演習、消防団員の基礎となる規律等を学ぶ新任団員・新任幹部団員研修、7月には市内大会の夏季特別訓練大会があり、昼夜を問わず仕事の合間を縫って、厳しい訓練を行っています。また、年末年始には火災予防巡回として各管轄消防団が実施しています。1月には、市主催により、松戸市消防団と松戸市消防局のほか、市内各消防関係団体や事業所が参加して行われる消防出初式があります。

また、平成25年4月1日からの松戸市他5市による千葉北西部消防指令センターの運用を開始しました。松戸市消防団の消防無線のデジタル化が実現し、常備消防との情報一元化を図ることができました。消防の常備化が進んできた今日においても、地域の消防防災の要として消防団の果たす役割は大きなものがあります。しかしながら、消防団は、団員の就業形態の変化、団員数の減少や団員のサラリーマン化など様々な課題に直面しています。このような中、消防団の本質を考え、新しい環境の下での消防団のあり方を検討する必要があります。消防団の充実強化ひいては地域防災体制の充実強化に繋がるものと考えております。

松戸市消防団は、地域の防災力充実強化・活性化を推進し、地域における消防防災地体制の中核的存在として、住民の安心・安全の確保のために日々邁進していく所存です。



わが町の消防団 ② 鋸南町消防団

鋸南町(きよなんまち)とは、千葉県の3名山の1つ、鋸山(のこぎりやま)の南に位置していることで名づけられました。

東西10.75km、南北7.3km、総面積45.16km²、人口約8,600人、年平均気温17度で冬は比較的暖かく、夏はカラッとしのぎやすい気候に恵まれた地であります。日本三大水仙生産地で、12月末から1月下旬まで鋸南町のいたるところで水仙の芳香が漂います。

「見返り美人」で有名な浮世絵の創作者菱川師宣の誕生の地であることや、石橋山の戦いに敗れ小舟で逃れた源頼朝が竜島海岸に上陸し、再起を図ったという歴史的事実など、歴史と文化の造詣に深い町でもあります。この源頼朝にちなみ、河津桜に『頼朝桜』との愛称をつけ、町を日本一の桜の名所とすべく町民一丸となって植樹に取り組んでおり、現在町全域に1万4000本が植栽されています。

鋸南町消防団は勝山町と保田町の合併による鋸南町誕生直後の昭和34年10月の発団以来、崇高な消防精神の基に、消火・防災活動はもとより、平常時の啓発活動など幅広い分野で活動し、地域住民の生命・財産を守り、地域防災の要として重要な役割を果たしてきております。

現有勢力は、大胡昌広 第15代団長を筆頭に、1本部・4分団・本部付き女性消防団の総勢168名で組織し、団本部指揮車1台・ポンプ自動車5台(内水槽車4台)・救助資機材搭載型消防車1台・小型動力ポンプ付き積載車1台の計8台を配備しています。

主な年間活動としては、年度当初の5月には、全団員を対象に消防の基本である規律訓練と車両を使用した実践的な消火中継訓練を実施し、新体制における活動時指揮系統についての確立。

6月には、前年度3月上旬から実施されている支部操法大会及び県操法大会に向けての操法訓練も終盤を迎え、団全体も大会に向けて士気が高まっている時期であります。尚、本年度の県操法大会には安房支部代表として、小型ポンプ操法の部に5年ぶりに出場しました。操法要員の長期間にわたる訓練の賜であることはさることながら、団を挙げてのサポート体制によることも大きな要因であり、一層の団結力向上に繋がりました。

7月は出水期を控えての警戒体制の配備、9月には町総合防災訓練への参加、11月には秋季火災予防運動への取組みの一つとして、限られた情報と条件の中で実際の災害を想定した団員非常呼集訓練を行っております。12月からは翌年2月までは消防団夜間警戒が実施、1月には団全体の更なる団結の強化を目指し、消防団最大の行事である消防出初式が挙行され、3月には春季火災予防運動の取組みとして、防火パレードを行う等年間を通じ地域防災の中核的存在として活動を続けております。



このほか平常時には通常の業務である各管内の水利の点検及び維持管理等を行っておりますが、近年では消防以外の行事にも積極的に参加をしており、消防団員への地域からの期待は大きなものとなっております。

東日本大震災以後は、消防団の存在がより一層重用され地域住民の期待は非常に大きく、しかしながら、近年の社会情勢により全国的な消防団員の減少は当町でも例外ではなく団員の確保が困難となっております。今後の創意工夫により、多様化する災害に対処するため関係機関との連携を図り、災害に強い安心で安全な町づくりのため積極的な活動をしていきたいと考えております。

最後に、鋸南町消防団は団員としての誇りと自信を持ち、地域防災の大前提である「自らの町は自らで守る」を常に念頭に置き、なくてはならない地域防災リーダーとして、日々の訓練に励み地域住民の負託に応えられるよう、邁進して行くものであります。



東 西 南 北

東 西
南 北

「消防車両の運転は任せろ!!」若年層の職員を対象に安全運転講習会を実施

柏市消防局

平成 26 年 8 月 11、18、25 日の 3 日間、柏市内の教習所（柏南自動車教習所）の敷地を利用し、若年層の職員を対象とした、『安全運転講習会』を開催しました。昨年度までは、機関員を対象に講習を実施していましたが、今後迎える、機関員の世代交代を踏まえ、今年度の講習会は職員として採用後、機関員未経験の者に限定し、柏市内の 4 消防署、7 分署の中から、将来の機関員を目指す若き職員 52 人が講習を受講しました。

講師は、自動車安全運転センター安全運転中央研修所で、「消防・救急緊急自動車運転技能者課程」を修了した当局職員が講師となり、パワーポイントを使用した講義と S 字コースを利用したバックスラローム、教習コースに、様々な障害物を設定した模擬市街地走行等、バリエーション豊かな実技講習を行いました。今後も、安全運転に関する講習会を継続的に行い、安全運転技術の向上を図っていきます。



建物火災を想定した火災原因調査訓練を実施

東 西
南 北

松戸市消防局



松戸市消防局は、平成 26 年 8 月 8 日（金）、消防訓練センターにて、毎日勤務の調査員で編成された調査班を対象とした、建物火災を想定した火災原因調査訓練を実施しました。

この訓練は、消防訓練センターの施設を木造 2 階立て専用住宅と見立て、「専用住宅の 2 階居室内のごみ箱に、完全に消火されていないたばこの吸殻を捨てたため延焼拡大し、2 階部分を焼損した。」との想定で、情報収集、写真撮影、図面作成を行い、原因調査

技術の向上及び知識の習得を図りました。

参加した調査員から、「火災件数が減少している中、原因調査の流れを再確認できた。」などの感想が寄せられました。



市内河川を使用した遠距離中継送水訓練

東 西
南 北

習志野市消防団

習志野市消防団では、平成 26 年 9 月 7 日、三代川彦博団長以下 8 ヶ分団が集まり総勢 76 名による遠距離中継送水訓練を実施しました。

近い将来、首都直下型地震や東海地震の発生が危惧されており、大地震が発生し大規模な火災が発生した場合に、消火栓や防火水槽などの消防水利の不足を唯一確保することが出来る場所が河川や海です。

今回の訓練では、火災の現場まで長い距離であることを想定し、ポンプ車 4 台の間を 38 本のホースを使用し、菊田川沿いにある消防水利の確保施設から中学校を約 1 周する総延長が 1.4Km となる一連の訓練を行いました。

最後に団長より「市民の安心・安全な生活」を守り抜くことを誓って訓練を終了しました。



東西南北 いきいき防火コンサート 千葉県消防局

千葉県消防局では、平成26年9月10日（水）、市内の「介護老人施設」に訪問して、消防音楽隊がコンサートを開催しました。

このコンサートは敬老の日になみ、毎年9月に市内の老人福祉施設を訪問し、演奏活動を通じて消防広報をしているコンサートです。

日頃、外出する機会が少ない利用者さんたちの温かい拍手に迎えられ、防火や救急の話をお熱心に聞いていただきながら、ひと時を音楽隊と一緒に過ごしました。

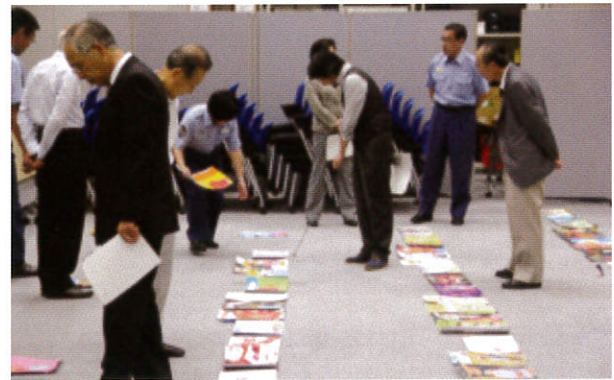


東西南北 防火ポスターコンクール審査会 千葉県消防局

千葉県消防局予防課では、平成26年度の防火ポスターコンクールを9月12日（金）当局7階作戦室で開催しました。

防火ポスターの募集は、市内の少年消防クラブ員がポスター等の作成を通して、防火・防災意識の育成向上を図るとともに、その作品を掲示することにより、市民の防火・防災意識の向上に寄与することを目的に実施しており、今年は、149点の応募をいただきました。

作品は、どれも火災予防に対する真剣な気持ちが込められた、素晴らしい作品ばかりでしたが、審査の結果、特別賞14点と佳作15点を決定し、特別賞及び佳作については、平成26年11月11日（火）から11月17日（月）までの間、千葉そごう地下1階ギャラリーにて展示し、特別賞14点は、秋の全国火災予防運動のポスターとして、市内の全町内自治会及び事業所等で掲示されます。



東西南北 消防団が保育園で防火啓発活動を実施 千葉県消防団

平成26年9月13日（土）、千葉県美浜区方面隊の分団が地域の保育園より依頼を受けて、防火啓発活動を実施しました。

消防車両の展示等を通して、園児の消防及び防火への興味・関心を深めることを目的に行われ、園児及び未就園児など約170名が参加しました。

当日は天候にも恵まれ、子どもたちにとって、防火について考えるよい機会になったものと思います。この機会をきっかけに、将来、地域の安全・安心を守る「消防団員」が生まれることを期待しています。



東 西 南 北 NBC災害活動訓練を実施

船橋市東消防署



船橋市東消防署(齋藤 文夫 署長)では、平成26年9月12日、16日、17日、船橋市東消防署前原分署において、NBC災害活動訓練を実施しました。

NBC災害の発生時に対応する前原分署化学中隊と一般の消防隊が、それぞれの任務を認識し、日々組織的部隊運用の習熟を図るために行っている訓練の効果を確認し、より迅速な連携活動の確立を目的として次のとおり訓練を実施しました。

訓練内容

警戒区域の設定 要救助者及び消防隊員の除染(除染テントの設置)
危険ゾーンへの進入管理他 汚染水の処理



東 西 南 北 石油コンビナート等特別防災区域における合同訓練を実施

千葉市消防局

千葉市美浜消防署では、平成26年9月17日(水)、成田国際空港株式会社千葉港頭石油ターミナル棧橋及び前面海域において、千葉県石油コンビナート等防災計画に基づき、石油コンビナート等特別防災区域における、防災体制の確立と防災意識の高揚を図ることを目的とした訓練を実施しました。

本訓練は、東京湾を震源とする直下型地震の発生により、棧橋に設置されているローディングアームの配管接続部から燃料が漏れいし、一部が海上に流出、火災が発生した想定で、千葉海上保安部、千葉県警察本部地域部水上警察隊、株式会社ダイトコーポレーション、日本空港給油株式会社、千葉市新港地区共同防災隊、千葉港頭石油ターミナル自衛消防隊と合同で訓練を実施しました。

今後も大規模地震等の不測発災時に備え、定期的に各機関が連携した訓練を重ねることが災害発生時における被害の低減に繋がるものと思われまます。



東 西 南 北 千葉市消防学校の卒業式を実施

千葉市消防局

千葉市消防学校では、9月24日(水)消防学校で6カ月間に渡る厳しい訓練で流した汗と涙の訓練成果を消防局幹部や来賓、ご家族に披露しました。

その後、屋内訓練場で行われた「卒業式」では卒業証書が授与され、「その顔つきを見て、現場の第一線で活躍できると確信した!」と学校長から激励の言葉を頂きました。



日々の動き

防災危機管理部／消防協会 共同編集

平成 26年度 11月・12月

- 11月 7日 第 24 回全国消防操法大会激励交流会 (東京都)
- 8日 第 24 回全国消防操法大会 (東京臨海広域防災公園)
- 11日 首都圏中央連絡自動車道建設促進県民会議 (千葉市)
- 14日 第 20 回全国女性消防団員活性化ちば大会 (浦安市)
- 29日 } 消防団員指導員研修 (消防学校)
- 30日 }

- 12月16日 千葉県消防協会臨時理事会 (千葉市)
- 26日 御用納め



平成26年 冬の全国交通安全運動 12月10日(水)から12月31日(水)

スローガン

～ なくそうよ ぼくらの町の 飲酒運転を ～

重点目標

- 1 飲酒運転の根絶
- 2 子どもと高齢者の交通事故防止
- 3 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止
- 4 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

平成 26 年度 全国統一防火標語

「もういいかい 火を消すまでは まあだだよ」

<表紙の説明>

「飯高寺」匝瑳市 (海匠支部)

飯高寺(飯高檀林)は、僧侶の教育と宗学を研究し、極めることを目的として天正7年(1579年)に開設され、翌年(1580年)に現在の土地に移っており、日本最古の大学として知られています。

檀林とは梅檀林の略語で、僧侶の集まりを梅檀の林に例えた、つまり寺院の尊称であるとともに仏教の学問所を意味します。

このように学問所として開かれた飯高檀林も、明治5年の「学制」発布により同7年に廃檀となり、294年間の歴史を閉じることになりました。

現在、講堂・鐘楼・鼓楼・総門が国の重要文化財に、檀林跡として境内全体が県指定史跡に指定されています。

